



平成 22 年 6 月 23 日

横浜市長 林 文子 様

社団法人 日本建築家協会 (JIA) 支部長 三上 真  
関東甲信越支部 支部長 三上 真  
同 保存問題委員会 委員長 三上 真  
同 神奈川地域会 代表 三上 真

## 旧三吉小学校「横浜市立復興小学校」校舎の保存・活用に関する要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

貴市におかれましては、日頃より文化の発展と継承に深く理解をお示しになられ、特に関内地区・港地区等の保存活用について先進的な活動をされていることに対し心より敬意を表します。また、当協会の活動にご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、貴市におきまして旧三吉小学校(前横浜市立大学医学部浦舟校舎)が解体されると伺いました。御高承のようにこの小学校は、1923年(大正12年)の関東大震災で罹災した横浜市立小学校校舎を鉄筋コンクリートで改築したもので、「復興小学校」と呼ばれております。横浜では震災後1930年までの間に31校の復興小学校が建てられました。その内30校が現在までに解体されており、第1号物件(1926年4月竣工)である旧三吉小学校ただ1校が、歴史のすき間からすり抜け現存しております。

東京においても同じような時期に東京市の復興小学校が117校建てられ、泰明小学校、明石小学校など現在19校が残っていると言われております。

横浜市のこの復興小学校は、市の営繕組織である建築課で設計されました。山田七五郎率いる設計集団は短期間の間に復興対策事業を進めて行きました。その中で31校の小学校建設において標準設計手法を用い、機能・構造・安全面で各学校が一定の水準を保つ様に設計している所に特徴があります。

また、単なる学校施設としてだけでなく、街の文化の中核的な施設でもありました。グラウンドを広く確保し地域に開放するという計画理念は、当時としては斬新な考え方だったと思われます。

これらの小学校の外観意匠は、各学校ごとに創意工夫されたもので、ライト風、セセッション、アールヌーボー、アールデコ等の「表現主義的デザイン」となっていました。旧三吉小学校も医学部校舎として内部は一部改変されていますが、建物の基本的な所は当時の面影を残しています。特に外観はシンプルながら柱頭飾り、最上階の水平廂(コーニス)、屋上の飾り手摺り(バラストレード)など近代建築のモチーフを使いながら、生糸検査場や三井物産ビルなどの建物と同じレベルの横浜らしい建築的な特徴を残しているものと思われます。別棟の体育館も非常にシンプルなトラス組による天井や外観など、特徴ある建物になっています。

また、同時期の復興小学校の解体調査から、耐震性の高さも現在の水準に近いものであったと報告されています。

地域の歴史と共に生き、多くの人の目に焼き付いている建物は、地域の中で生きた形で使われていくことが大切です。老朽化や使われ方の変化といった種々の課題は、近年の技術的進歩によって克服可能な課題と考えられます。

なにとぞ、横浜でただ1校残った旧三吉小学校校舎を保存・活用することで優れた歴史的環境と横浜らしい都市景観を保全下さいますよう、心よりお願い申し上げます。

なお、社団法人日本建築家協会関東甲信越支部、同 保存問題委員会、同 神奈川地域会は、旧三吉小学校校舎の保存活用について、出来る限りの協力をさせて頂く所存である事を申し添えます。

敬具